

くどう さとし
工藤 智司

あと一步の勇氣

●基幹労連・事務局長

2013年は伝える事の難しさを痛感した1年であったと思う。

組織の話で恐縮ですが、基幹労連は2003年9月9日に当時の鉄鋼労連、造船重機労連、非鉄連合の仲間が、それぞれの組織を解散し、そして大同団結を図ることによってスタートをした組織であり、2013年結成10年を迎えました。この産別統合は、我々の中で時代の流れが常ならぬものであることを強く印象付ける統合であったのではないかと考えています。それぞれの産業でグローバル化が加速する中、いかにして生き残っていくかが問われていましたし、今現在も基本的に状況の厳しさは変わらないと思っています。それだけに、当時、大同団結の判断をし、そして実行に踏み切った当時の先輩方の思いは、危機感に満ちたものであったことを、今、あらためて思い起こすところです。そのくらいそれぞれの産業状況は厳しいものがあったのであります。そしてまた、その産業状況を反映して、組織人員は減少の一途をたどりました。事実、結成をしてからの最初の二年間は、厳しい合理化なり人員削減のトレンドがやむことはなく、実に9,000人も規模で組織人員が減少することとなりました。この10年を振り返るとき、そのような草創期における諸先輩の方々の苦労を忘れることはできません。実に意味の重たい、将来につながっていくこの10年を形成していただいたのは、まさにこの草創

期の困難を乗り越えてきた方々に他ならないのであります。「初心忘るべからず」であり、草創期の先輩方が、なんのために大同団結をしてきたのか。働く仲間の幸せ、雇用と生活、それを支える産業の発展のために、断固として闘い続けて参らなければならないと考えています。この先輩達の思いを我々現役はどれだけ伝えてきたのだろう。事務局長として大会の議案書には必ず結成当時の思いを触れてきたつもりであるし、結成時点からの宿題の解決にこの4年間務めてきました。これは全国組織での退職者の会結成でひと段落したと思っています。さらに産業課題の克服に向け様々な活動を行ってきました。

しかしながら、第23回参議院選挙での大敗を受け止めると結果として産別の思いは伝わらなかったという事だと感じています。基幹労連は第23回参議院選挙の結果を踏まえた再スタートを切る事がもっとも大きな課題であります。これまでの組合員の取り組みにはただただ頭の下がる思いですが、組織内参議院議員を再選させる事が出来なかった事は痛恨の極みであります。

私の最も大きな課題認識は「世の中の投票行為と我々組合員の投票行為がほとんど変わらなかった」という事です。これは、組織として極めて大きな課題を突き付けられたと思っています。この背景に「組合の組織決定と



は何か」という事を今一度考えなければなりません。我々は様々な場面で組織決定を行っています。職場での各種活動から大会の運動方針まで様々です。候補者の推薦もその一つですが、結果として組合員の皆さんが組織決定を是としなかったという事です。積み上げ形の組織決定を行っている労働組合にとってこれは極めて重たい事実であると思っています。組織の中の機関決定は昔のような大会や中央委員会でのやり取りは少なくなり意見要望無く大綱了承となる事が多いのも事実です。本来もっと活発な組織討議が職場段階から如何に積み重ねる事ができるかだと思っています。

さらに言えば、組合員の皆さんに我々の主張が届かなかった、もしくは届いたとしてもそれを良しとしなかった、という事です。良しとしたとしても具体的な行動につながらなかったという事です。我々の主張が組合員の行動に影響を与えられないとしたら我々の存在は一体何か、という事が突きつけられていると思います。

我々が会社の経営者と交渉を行う事や、各種団体に対して要請を行う事が出来る背景には我々が職場の代弁者である事が大前提にあります。われわれが職場の代表であるから経営は交渉のテーブルにもものるし、省庁は各種要請にも耳を傾けてくれます。これは選挙戦略や戦術を語るまえの大前提としての組織論

の話であり、極めて脆弱な基盤の上に我々は立っているという事実です。

「私自身、何を言えばよかったのか、何をすればよかったのか」猛省しているところです。もういちどしっかり地に足のついた活動を行っていかねばならないと思っています。結局我々に出来る事は「語る事」しかないと思い、全国の組織を回りながらいろいろと話をしてきました。さらに多くの同僚とも語り合ってきました。しかしながら、なにをすればよかったのか、何を語ればよかったのかは未だ見えません。一つ一つの活動に魂を込めしかりと行っていくしかないのかもしれない。

基幹労連は2013年9月6日に結成10周年記念祝賀会を執り行いました。産別結成を決断した時期のリーダーの方々との話は有意義であり様々なご指導ご鞭撻を頂きました。ある先輩にぼそっと「あと一步の勇気が大切だ」と言われました。

いろいろやってきたが、良かった事も悪かった事も結果は結果、これを踏み台として前に行かなければいけない。色々な事にチャレンジしたが「絵に描いた餅」になっていたのかもしれない。青臭いようだが2014年は泥臭く魂を込めて前に行きたい。あと一步前に行く勇気を持ち続けていたい。